

長岡地区納税貯蓄組合連合会優秀賞

税のありがたさ

長岡市立栖吉中学校

三年 水澤 友唯

税の仕組みがあるから今の私たちがあつた、今の日本があつたと言つても過言ではないだろう。そのくらい、私たちにとつて税とは必要不可欠なものである。身近なところでは、児童や生徒の教育費、生活に目を向けると、ごみの処理や新潟の冬には欠かせない除雪などにも税金が使われている。私たちの豊かな暮らしは税によつて守られている。

そんな税の仕組みだが、もし、私たちの生活からなくなつてしまつたら、どう変化するのだろうか。

まず、教育費がなくなつてしまつた時の変化を考える。教育費とは国民すべてが平等に教育を受けられるように使われている税金のことである。その仕組みがなくなつてしまつたら、学校に通える人、通えない人の差が大きくなる。通えない人は悪いことをしていないのに、それだけで馬鹿にされたりする、なんてことも有り得るかもしれない。また、そうでなくても仕事の試験などでは、学校に通い基本の知識を身につけている方が有利であつたりして、人柄関係なく採用ということが多くなつてしまふと思う。

次に、ごみの処理、冬の除雪に使われる税金がなくなつてしまつた時の変化を考える。ごみを処理してもらえなければ、自分で燃やすか、放置するかということになる。燃やせば二酸化炭素が発生するし、環境に良くない。人間だけでなく、他の動物などにも悪影響だ。放置すれば家の中はごみであふれ、生活の妨げになる。冬の除雪にしても、雪があれば交通の妨げになるし、人の手で除雪するとなれば、相当の労力と時間がかかる。

災害からの復興に使われる税金がなくなつた場合はどうだろうか。過去の地震で、地震直後に、水道や電気などが使えなくなり、道路の陥没などによつて孤立するところがあつた。その時に、避難した人々に食料や水を支給したり、仮設住宅が建設されたり、施設や道路の修復などに多くの税金が使われた。もしその税金がなくなつたら、生きていけない人もいただろうし、今のような過ごしやすい環境にもなつていないだろう。こういうことから、税のありがたさが分かる。

買い物をする時の消費税、給料から差し引かれる所得税、この他にもたくさん種類の税がある。支払う時は、少し嫌だなと思つてしまふかもしれない。私も以前はそうだった。でも、税のありがたさを知つてからは意識が変わつた。ぜひ、多くの人に、税がなくなつてしまつたら今の生活はどう変化してしまふのかを考えてほしいと思う。

